

1. 社会の動向

近年、AI は一部の先進企業に限られた取り組みではなく、企業の競争優位性や生産性を左右する経営基盤へと急激に発展しています。総務省の調査によると、米国や中国といった主要国では業務における生成 AI 利用率は 90%を超えています。日本においても 55.2%に達しており、AI 活用は着実に「例外」ではなく「標準」へと移行しつつあります。

一方で、AI の普及に伴い、従来とは性質の異なるサイバーリスクが顕在化しています。情報処理推進機構（IPA）が公表した「情報セキュリティ 10 大脅威 2026」では、「AI の利用をめぐるサイバーリスク」を組織向け脅威として初めて選出しており、これは AI がすでに経営リスクの一部として認識され始めていることを示しています。

こうした環境変化を踏まえ、SCC では「生成 AI 利用ガイドライン」を制定し、リスク対策を強化しています。また、万が一インシデントが発生した際に向けても、迅速かつ適切に対応できる専門体制を整備しました。AI を安全かつ有効に活用して、情報セキュリティおよび法令遵守と、業務効率・品質向上を図ってまいります。

また、AI 活用の基盤構築にとどまらず、その適用範囲の拡大を見据えて、AI 領域を中心とした先進技術の習得と展開を一体的に推進する組織を編成しました。これにより、SCC の技術力を一層高め、先進技術の事業への適用を加速してまいります。

私たち SCC は、IT で高度情報化社会を支えてきた実績と誇りを胸に、DX 戦略を確実に推進し、未来に向けて社会に新たな創造価値を提供し続けます。

株式会社エスシーシー
代表取締役社長
春日 邦彦

2. 中期 DX 戦略の推進状況

(ア) 重点施策

① プロジェクトマネジメント支援 AI システムの構築

構築したシステムを活用し、対象部門の PMO にモニタリング結果を踏まえた指示を行う体制により、安定したマネジメント環境を構築しました。また、本システムはソリューション化による販売を検討しており、より社会の DX 促進にも貢献できるよう準備を進めています。

② タレント活用のマネジメントシステム構築

タレントマネジメントシステムを活用した、全社での人事評価の運用を開始しました。今後は更なる情報の蓄積運用と分析等の利活用として、各種人事の運用を集約し、データドリブン人事を推進します。

③ 企業アライアンスによるコラボレーションビジネスの開始

様々な企業との事業検討を進める中で、2社とのアライアンス事業を開始しました。新規事業創出を目標としたコミュニティの設立・活用を予定しており、共創事業の持続的な発展を進めてまいります。

(イ) 環境整備

① 支援・育成面

キャリアサポートの仕組みを構築したうえで、一部部門への試行運用を完了しました。試行参加者にキャリアプランシートを作成してもらうことで、評価、課題の抽出を行い、結果を踏まえた全社展開に向けた計画化を完了しました。

② 職場環境面

事業部制をインフラ部分で支える基盤として「リアル空間」と「仮想オフィス」を整備し、ロケーションにとらわれず、協働が可能な環境を社員に提供しています。また、選択式休憩時間の導入など、働き方の多様化ニーズへの対応を推進し、社員の働きやすさ、およびモチベーションの向上に繋げています。

③ 作業・セキュリティ面

AIの活用による生産性向上を目的として、フロンティアAIを一部社員に先行導入しました。その結果、業務効率向上への有効性が確認されたことから、全社員へのフロンティアAIの展開に向けた準備を進めています。また、社内におけるAIの安全な運用を確保するため、「生成AI利用ガイドライン」を策定し、適切な統制のもとで活用を推進しています。

④ 組織風土面

理念に対する定期的な情報発信や表彰を通じて組織風土・文化の醸成の活動を進めています。2025年度についても組織文化サーベイを実施するとともに、サーベイ結果をもとに各部で組織文化醸成のアクションをディスカッション形式で設定することで実践を促し、より目標達成のしやすい組織づくりに取り組んでいます。